

令和5年度「障がい児バリアフリーのびのびスポーツ教室」報告書

1 事業実施日及び時間

(1) 期日

- ① 5月28日(日) 午後1時から3時(受付や準備体操、休憩等を含め2時間)
 - ② 7月30日(日) 同上
 - ③ 8月26日(土) 同上
 - ④ 9月30日(土) 午前10時から12時(受付や準備体操、休憩等を含め2時間)
- ※9月30日は教室後、市民体育館敷地内で芋煮会を実施(終了12時30分)

2 場所

村山市民体育館 アリーナ

3 指導者

村山市民体育館職員(各開催日に3人が対応)

4 具体的な事業の取組みについて

(1) 教室の周知方法と参加の働きかけの取組み

- ① 村山市社会福祉協議会(たいよう、おひさま、いずみ)と村山市内の障がい者施設「ライフサポート縁」に対して、入所者全員に配布できるようチラシを作成し周知した。
- ② 教室が月に1回のため、申込者が次回の開催日を確認できるように、日時を記したハガキを各家庭に送付し、教室への参加を働きかけた。

(2) 実施した種目とその工夫について

- ① 障がい児が4回の教室でスムーズに取り組めるよう、同じ5つのニュースポーツに絞って実施し、スポーツ(遊び)をとおして体を動かすことの楽しさや喜びを体験させた。
※種目: RDチャレンジ・アキュラシー・ディスクゴルフ・カローリング・ボッチャ
- ② 怪我や熱中症予防など安全に配慮して事業を遂行するために、準備運動は時間をかけて丁寧に行い、また30分毎に水分補給のための休憩時間を設けながら実施した。
- ③ 障がい児が実施種目を理解できるように、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、言葉とイラストで分かりやすく内容を説明し行った。(掲示版と配布物)

(3) 教室を支援するボランティアの募集と交流について

- ① 障がい者のサポートのため市内の小学生、中学生、高校生にボランティアを募った。その結果、楯岡中学校の生徒(14名)と大久保小学校の児童(9名)が趣旨に賛同し参加してくれた。
- ② ボランティアの参加者に「バリアフリーのびのびスポーツ教室～みんなで支えよう!! スポーツボランティア～」を配布し、その資料で趣旨を説明してから参加してもらった。
- ③ ボランティアの参加者には障がい者へのサポートだけでなく、一緒に活動することを働きかけ、積極的に交流してもらった。また、最終9月の教室では、スポーツ活動後に芋煮会を企画し、スポーツや会食等をとおして互いに理解を深める機会となった。

5 事業の成果

スポーツに親しむ機会が少ない障がい児に対して、広い体育館でスポーツに触れる機会を提供し、親子でのびのびと身体を動かすことで心身の健康の増進に寄与することができた。また、健常な子どもたち(ボランティア)と交流の機会を設け、障がいの有無にかかわらず、正しくバリアフリーでスポーツを楽しむことを実感させることができた。

このようなことからスポーツ活動を中心とし、インクルーシブの考え方で共生社会に結び付く事業を展開することができ、当初の企画どおり大いに成果があった。